

(2024) 年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

	活動名	実施 回数	参 加 人 数										内 容	成 果 と 課 題		
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア					合計	
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生	大人				
	(2)切り絵タイム	25		12	215	9	27	1				27	291	切り絵活動	刃物の使い方を学び、進級の目標を定めて、継続して取り組んでいる。 長期休暇には、「ステンドグラス風切り絵」に挑戦した。 小学校で展示の場があり、意欲向上に繋がった。 学区社協からボランティア協力があり、交流に繋がった。	
	(2)高学年手づくりクラブ	1	1			1	3					1	6	がま口ポーチ	少人数でていねいな指導が受けられ、高学年の子どもの楽しみになっている。 来年度も継続した取組にしていきたい。	
	(3)児童館まつりマッサージ	1		3	3								6	児童館まつりオレンジカフェコーナー でマッサージ	児童館まつりの来られた地域の方にマッサージをして交流することができた。	
	(3)児童館まつり実行委員	4				9	13						22	児童館まつりの企画	ジュニアボランティアが企画から主体的に取り組むことで、責任感が生まれ、意欲を持って取り組むことができた。	
	(3)おばけやしき実行委員	4				6	9				6		21	おばけやしきの企画	ジュニアボランティアが企画から主体的に取り組むことで、責任感が生まれ、意欲を持って取り組むことができた。	
	(3)おばけやしき	1	6	16	10	7	2	2	9		5		57	おばけやしき実行委員会によるおばけ やしき	普段のあそびの延長上の取組をすることで、高学年と低学年が日常的に関わる きっかけとなった。継続して活動していくことで、ジュニアボランティアの自己実 現の場となるような取組をしていきたい。	
	(3)3年生太鼓発表	1		13	8								21	児童館学童保育所まつりで太鼓発表	左京東山児童館学童保育所まつりで演奏した。発表までに学童で練習し、地域の方 の前で発表することができた。	
	(3)お楽しみ会	1		1	13		2				1		17	子どもの企画	児童館まつりでのこども企画コーナーに出店できなかった子どもたちが、後日、自 主的に企画・運営できる場を設けた。子どもたちが遊びを企画し、それに他の子ど もたちが参加し楽しんだ。	
	(3)小さい先生の日	11					91						91	高学年Jrボランティアが小さい先生と して活動	年上としての自覚を持って、年下の児童へ積極的に関わるようになり、普段の生 活の中でも「小さい先生」として意識が高まる機会となった。 今後は自由来館児童の参加を広げたい。	
	(3)ソフトボール練習	4		1	37	19	15						72	ソフトボール交流に向けての練習	ソフトボールのルール知り、練習を通じてチームに一体感が生まれた。 幅広い年齢の参加もあり、異年齢の交流に繋がった。申込みをしていない児童も 練習に自由に参加できるようにすることで、経験のない児童の参加が増えた一方、 チームとして成長するためには、出場するメンバーで練習する必要がある。次年度 工夫が必要。	
	(3)大掃除	2			1				4	25				30	児童館の館内、館外の掃除	1年間使った児童館を心をこめて掃除し、自分たちの児童館をいつも清潔にしな ければならないという意識を持つことができた。
	(3)防災演劇ワークショップ	3				15	5	6				3		29	高学年が防災をテーマに劇を創作 する	劇団・防災アドバイザーや大学生ボランティアの協力のもと、防災に関するドラマ 撮影を行った。災害の備えについて、また、不安を煽る情報に惑わされずに正しい 情報を見抜く大切さを伝えるドラマを作成した。 上映後、大人向けの講座と寺子屋さんによる子ども向けのふろしきを使った風呂敷 を使った被災時に役立つ風呂敷の使い方のレクチャーを受けた。
(3)防災ドラマ上映会&防災いろいろ体験会	1	3	7	13	8	1	1	31			2		66	子ども達が劇を通じて防災につい て地域に発信する。地域住民と子 どもたちが共に防災について体験 する。	ワークショップで撮影したドラマの上映と、防災についての体験会を行う。体験会 では非常時に役立つ風呂敷の使い方を寺子屋さん、出演児童から教えてもらい、交 流した。	
(3)親子交流会	1	8	19	16	7	5	2	24					81	学童クラブ親子の交流会	保護者会と共催で実施。遊びや、工作で、友達や親子間交流、また保護者同士の交 流につながった。	

(2024) 年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

		活動名	実施回数	参 加 人 数										内 容	成 果 と 課 題	
				乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア					合計
					自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生	大人			
	(3)避難訓練	6		1	344	6	65						416	万一の地震・火災に落ち着いて行動できるような訓練	午前中の乳幼児クラブ、放課後の小学生対象で実施。乳幼児クラブでは、非常口から出る練習、避難の姿勢の確認をした。また、防災アドバイザーによる防災レクチャーも行った。学童クラブでは、高学年児童が職員のポジションで年少の児童を誘導することが定着し、高学年児童が意識を持って行動していた。地震の避難と火災の避難を分けて訓練した。火災については出火場所や時間帯を変えて多様なパターンで訓練した。	
	(4)手話クラブ	44		72	354	98	127	56	11				718	小学生以上を対象とした継続的なクラブ活動	2021年度よりコロナ禍で手話歌を始めたことをきっかけに活動開始。低学年の日と高学年の日に分かれて活動。手話に親しむことをモットーに、学習やゲームを通して手話に触れている。聴覚障害のある方、支援する方との交流も実施。活動を通して、聴覚障害について、また高学年はそれにつながる社会についても考える機会となっている。	
	(4)民舞クラブ	39		41	199	156	109	24	5		1	57	592	小学生以上を対象とした継続的なクラブ活動	子どもたちが主体的に何を踊るかを自分たちで選んで活動を進めていった。高学年会議を持つことで、高学年が中心となりクラブを運営した。障がいのある子どもも登録しており、認め合い、支え合う仲間づくりを進めた。活動経験の長い高学年児童が充実感を得られるよう、5年生以上で活動を行う事や、希望者でお囃子の練習を行うなど、別途活動時間を設定することで充実感が増し、継続への意欲につながっている。	
	(4)卓球クラブ	34		28	243	80	26	15	3				395	小学生以上を対象とした継続的なクラブ活動	登録人数が増え、名字順に「Aクラス」「Bクラス」に分けて活動。基本活動の後に、登録制の上級コース「挑戦コース」を設け、ハイレベルな活動にも繋げている。高学年がリーダーとなって練習メニューを考え、高学年会議も実施する等、自分たちで運営している。今後も、児童の自主性を育み、自分たちで運営できる力をつけていきたい。	
	(4)和太鼓クラブ	31				38	66	24	7			61	196	高学年以上を対象とした継続的なクラブ活動	地域の祭りで演奏する等、地域の方が児童館を知るきっかけにもなっている。18：00以降は中高生の時間とし、中高生ならではの演目を練習している。	
	(4)初めての将棋教室	1		3	1							3	7	将棋教室の体験、入門	初めて将棋に携わる子ども、1年生に向けて、丁寧な取り組みができたことで、将棋教室に入りやすくなった。	
	(4)将棋教室	10		57	10	47	7					26	147	小学生以上を対象とした継続的なクラブ活動	地域の方にボランティアで指導に来ていただき、地域交流に繋がっている。将棋を目的とした自由来館につながっている。	
	(5)認知症ミニ講座＆声かけ探検	1		2	51	1	9					13	76	子ども達が認知症について理解し、地域の一員としての支援の意識を高める。地域住民との交流を図る。	高齢者福祉分野との協働で、子どもと保護者世代に認知症についての理解と啓発をした。当日は、小学校運動場と、小学校前の公園で実施。地域ボランティアの方々に協力いただいた。高学年児童がこれまでの経験によりスタッフとして、家族役を演じて低学年全員に声かけ体験が実施できた。	
	(5)クリスマス会実行委員会	2				6	8						14	高学年以上Jrボランティアによるクリスマス会の企画	Jrボランティアが企画から主体的に取り組むことで、責任感が生まれ、意欲を持って取り組むことができた。	
	(5)クリスマス会	1	11	35	18	18	4	2	11			2	101	クリスマス会	民生児童委員協議会の方にサンタクロースをしていただき、異世代交流につながった。手話クラブによるコーナーでは、手話を多くの子どもたちに知ってもらえるきっかけとなった。継続して活動していくことで、ジュニアボランティアの自己実現の場となるような取組をしていきたい。	
	(5)正月あそび	1			74		16					5	95	たこあげ、はねつき、高学年遊びだるまさんがころんだなど	地域の方に協力をいただき伝統的なお正月あそびを伝える。様々な伝統に触れ、地域の方と関わりを持つことができた。屋外でできる遊び（羽根つき、凧揚げ・コマ回し・福笑い）を行った。高学年が「小さい先生」としてコーナーを1つ企画運営し、意欲を持って取り組めた。	
	(5)左京東山児童館学童保育所なかよし卓球大会	1			10	4	3	3					20	卓球大会	他館との交流になった。日頃の練習成果を発揮でき、子どもたちのやる気につながっている。	

(2024) 年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

		活動名	実施 回数	参 加 人 数										内 容	成 果 と 課 題	
				乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア					合計
					自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生	大人			
		(5)ソフトボール交流会	1			12	8	3					1	24	ソフトボール交流に向けての練習	他館と交流することができた。 目的を持って練習に取り組み、高学年が低学年に教えるなど、仲間作りに繋がった。
		(5)オレンジガーデニングプロジェクト	1		8	5	2	2				7	1	25	お花のしおりづくり	お花の植木鉢と、作った押し花のカードやしおりを地域包括支援センターに届けに行き、高齢者の方々と交流することができた。また大学生のボランティアの方に教えてもらい、異年齢交流にもなった。
		(5)わきの山フィールドワーク	2	3	6	17	2	4		5		3		40	自然観察フィールドワーク	自然観察フィールドワークを通して、植物や生き物を見たり触れたり、身近な自然への関心を深める機会になった。
		(5)洛北中吹奏楽部演奏会	1	8	6	14	3	5	3	12			1	52	洛北中学校の吹奏楽部による演奏会	音楽を通して中学生と乳幼児、小学生の異年齢交流の場になった。
		(7)子ども会議	11						2	52			3	57	5.6年生以上の子どもたちが自分たちの意見を児童館運営に反映させる	意見箱の意見について実施可能か話し合ったり、自分らの価値観を共有する「なんでやねん」すごろく等の実施。会議を通して小学生との遊びを企画し遊びのリーダーとして活躍した。仲間づくり、交流の場になっているが、子ども自身が運営に参加している意識を持つまでには至っていない。今後の方向性について考える必要がある。
		(7)中高生企画	3							27				27	「手持ち花火」、「餃子ビザパーティーの事前準備」と本番	子ども会議の時に、中高生が児童館でしたいこととして意見があった、「手持ち花火」を児童館で実施。普段関わりの少ない中学生同士が交流できた。「餃子ビザパーティー」では、企画者が他の参加者に作り方を教えるなどリードして活動できるよう事前練習を行い、3月の本番では、新中学生である6年生を参加者に迎えて企画運営することができた。
		(7)居場所アンケート	4			19		2						21	児童館、学童保育所に通っている子どもを対象とした、京都市実施の居場所のアンケート	児童館を利用する児童が、みんなにとっての居場所についてweb上でアンケートに回答した。京都市に提出し、中高生ワークショップの企画内容に役立てられた。
		(7)中高生ワークショップ	2							9				9	京都市児童館学童連盟主催ワークショップ	児童館学童連盟の会議室で、「みんなにとって居場所ってどんな場所」、「もっと居たいと思う時はどんな時」など、中高生世代で集い意見交換をした。ワークショップに参加した子どもたちは、後日開催の京都市長対談にも参加し、自分たちの考えや意見を届けた。
		(7)Welcome!中高生!!	11				3		57				22	82	中高生を対象とした取組	大学生ボランティア企画の遊びや、中学生が企画した遊び等を実施。大学生が、中学生のロールモデルになっている。 1月からは、6年生の切れ目ない利用につながるようブレ中高生タイムを実施。
		(7)中高生にむけた学習支援	10				1		35				15	51	学習支援	学習面のサポートのみならず、児童にとって将来像をイメージできるような関りが生まれた。大学生には、今後も引き続きロールモデルとしての活動を期待する。参加を呼びかけるため、引き続き来館時に誘ったり、口伝で友達を誘ってもらうなど、周知する。今後中高生が大学生とともに主体的に運営できるよう工夫していきたい。
		(9)高学年京都歴史散策	1						5					5	京都各地にある歴史に触れる。	自分の足で散策しながら、京都の歴史を身近に感じる、高学年ならではの活動になった。
		合 計	278	40	331	1687	554	636	323	143	0	68	198	3980		
推 進 活 動	(10)移動児童館	1	10							9			19	地域の子育て家庭を対象に遊びの広場。子育てに関する声を聴く。近所の公園で実施。	地域の子育て家庭に児童館を知ってもらうきっかけとなった。 子育てに関する状況や悩みを聞くことができた。児童館でできる支援について知らせ、その後の支援や来館につながった。 定期的に実施し、子育て家庭への支援、児童館のPRにつなげた。	
	合 計	1	10	0	0	0	0	0	9	0	0	0	19			
	子ども育成機能 合 計	279	50	331	1687	554	636	323	152	0	68	198	3999			

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。

推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。

指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。

(2024) 年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書 (明 徳) 児 童 館

	活動名	実施回数	参 加 人 数										内 容	成 果 と 課 題	
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア					合計
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生	大人			
	①乳児クラブ	32	210						206				416	登録された乳幼児親子の遊びや交流	季節の遊びや工作を通して交流を行った。保護者同士の情報交換を求める声から、「サイコロトーク」等として子育ての情報交換ができる場を定期的に設けた。事後アンケートから子育て不安や孤独の緩和につながっていることがわかった。
	①幼児クラブ	48	251						240			40	531	登録された幼児親子の遊びや交流	季節の遊びや工作を通して交流を行った。保護者同士の情報交換を求める声から、「サイコロトーク」等として子育ての情報交換ができる場を定期的に設けた。事後アンケートから子育て不安や孤独の緩和につながっていることがわかった。
	①あそびの広場	2	8						8				16	ボールプールやトンネル遊びなど。11：30～職員による手遊びや絵本読み	自由に遊びながら交流できる機会となっている。
	①あそびの広場スペシャル	2	12						8			1	21	水遊びなど季節の遊び等	あそびの広場スペシャルを定期的に実施。普段できない水遊び等をしたことで、乳幼児親子の来館目的の1つになった。 今後より多くの方がほっとりと過ごしていけるよう、児童館としてどのような取組をすればいいか、内容を精査していきたい。
	①さくら会さんのあそびの広場	11	58						49			22	129	広域ボランティアサークルによるあそびの広場	広域ボランティアサークルがあそびの広場を行うことで、交流を深め、世代間の交流につながった。
	①移動児童館	1	10						9				19	地域の子育て家庭を対象に遊びの広場。子育てに関する声を聴く。近所の公園で実施。	地域の子育て家庭に児童館を知ってもらうきっかけとなった。
	①親子リズム	7	26						23			6	55	乳幼児親子を対象にしたリズム表現の取組	乳幼児親子の交流を目的としている。乳幼児がリズム・音楽表現に興味を持って参加することができた。また、児童館に来館するきっかけとなった。 地域のボランティア協力を得て、異世代交流や地域交流の場にもなっている。
	①ベビーマッサージ「ころころ」「ハイハイ」	28	193	1					183				377	助産師を講師に迎え、ベビーマッサージを実施。 子育てに関する悩みを共有でき、保護者同士の仲間作りにも繋がっている。交流が広がり、親子リズムや乳児クラブなどへの参加に繋がった。 ベビーマッサージを通し、講師の助産師とも気軽に育児の相談ができる場となっている。	ころころ横になっているお子さん向けの「ころころ」、ハイハイで動き始めたお子さん向けの「ハイハイ」とし、を交互に実施。 子育てに関する悩みを共有でき、保護者同士の仲間作りにも繋がっている。交流が広がり、親子リズムや乳児クラブなどへの参加に繋がった。 ベビーマッサージを通し、講師の助産師とも気軽に育児の相談ができる場となっている。
①キッズマッサージ「よちよち」	2	15						15				30	助産師を講師に迎え、キッズマッサージを実施。 キッズマッサージ終了後のランチタイムも再開。	「キッズマッサージ」というネーミングだとベビーマッサージを卒業した親子の利用につながりにくかった。今年度より、キッズマッサージをベビーマッサージ「よちよち」として実施。成長のステップがわかりやすくなり、参加者が増えた。よちよち歩き始めたお子さん向けの「よちよち」を9月と2月に実施。親と子の関わりを深めるツールのひとつとなった。 自我が芽生える時期の子どもを持つ保護者同士が、共感し合える場となった。また、キッズマッサージを通し、講師の助産師とも気軽に育児の相談ができる場となっている。	

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

子
育
て
家
庭
支
援
活
動

①Welcome!はじめてさん!!	7	11						9				20	児童館を利用したことがない方を対象に、児童館案内と手形足型の記念品工作。	初めて児童館を利用する際のハードルを下げ、気軽に利用できるきっかけとなった。他の取り組みへの参加に繋がるだけでなく、初めて来館した保護者同士の仲間づくりの場となっている。 今後も、情報発信と内容の工夫で、初めての方が来館しやすい取組となるよう継続していきたい。
①子育て講座「子どもの発達と関わり方」	2	13						13				26	さがるに相談広場特別講座として、京都市児童館学童連盟 統合育成主任 岡崎達也氏を講師に迎え実施	子どもへの関わり方や、声掛けの仕方などの講義のあと、相談タイムを実施。子育ての悩みを共有し、学び合う機会となった。
①アイアイさんのブックトーク	10	21						21			7	49	ボランティアサークルによる読み聞かせ	季節やテーマごとの絵本の紹介、また、年齢に応じた読み聞かせをしてください、絵本に興味関心のある保護者に好評だった。
①クリスマスコンサート	1	12						11			6	29	アンサンブルグループ「アンジェラ」を迎え、コンサートを実施。	トーンチャイムの演奏や、クリスマスソングなどの演奏会。美しい音楽を親子で楽しむことができた。久しぶりに来館された親子もあり、児童館利用のきっかけにもなっている。
②小学生と交流おやこリズム	1	4		7				3			1	15	学童の希望者で、乳幼児への接し方や活動内容を事前打ち合わせ。小学生が遊びの先生となって、乳幼児と遊ぶ	事前に有志の小学生とリハーサルをして実施。乳幼児親子が小学生と触れ合うことで、成長のイメージをもてる機会となった。
②ふたごの広場	11	0						0				0	ふたごの親子を対象にした交流・情報交換の場	双子の親子が集う場を提供することにより、悩みや疑問を共有し合える場となることを目的としてきたが、地域の双子出生減少もあり、利用が減った。問い合わせがあっても、以前登録された方と都合が合わなかったり、同世代の子と知り合いたいというニーズが叶わなかったりなど、参加に結びつかないことが多くなった。次年度以降、多胎児支援のあり方を考え直す必要がある。
②出番でっせ！お父さん	2	2						3				5	乳幼児親子のお父さんをメインターゲットにした取組	土曜に実施。普段、児童館を利用することの少ないお父さんに、児童館の様子や取組を知ってもらうことができた。家族での参加もあり、家族同士での交流にもつながった。お父さんが参加しやすいよう、「Welcome!!はじめてさん」と同時開催するなど、工夫をした。今後もお父さん同士の交流につながる場にしていきたい。
②左京北部親子サンサン広場	1	31						32			26	89	左京北部地域の児童館、地域各種団体と協力して実施。	京都精華大学の教室をお借りして実施。親子がふれあいながら、楽しく遊べる場を提供すると共に、子育て相談、情報交換の場ともなった。
③さがるに相談広場	10	40						37				77	児童館で、こどもを遊ばせながら気軽に保育士や助産師に相談できる広場。	助産師の協力を得て、保育士経験のある職員も担当に加え、子どもの発達や母親の不安、家庭内の問題など、親が気軽に相談でき、専門的な視点でアドバイスを受けることができる場としている。相談内容への対応については児童館職員の力量が求められるところ。
(2)高校生と赤ちゃんの交流事業	2	21						21				42	京都府立北稜高等学校の家庭科の授業に乳幼児親子と参加し、交流。	次世代の親となる思春期児童が、妊娠・出産等に関する知識を習得し、乳幼児親子とふれあう機会をもつことで将来子育てに関わるときの貴重な予備体験となる。 乳幼児親子にとって、赤ちゃんが思春期児童のように成長していくことを実感する、十数年後を見通した子育ての意識を持つ機会となった。春と秋の二回実施し、乳幼児親子にも継続して参加してもらえるように募集をした。成長を見て実感してもらえる機会になった。
(2) プレママ・プレパパ「いっしょにはじめよ」	1	9						9				18	助産師を講師に迎え「産前の準備、先輩ババママとのトーク」を実施。子育てつながりトークで交流	プレパパ・ママと先輩ババママとの交流をねらいに行った。また、先輩ババも積極的に誘いし、パパ同士で交流する機会となった。初産婦の参加は1組あった。参加した方が出産され、登録制乳児クラブや取り組みへの参加につながった。生まれる前に児童館を知ってもらい、途切れのない支援に繋げることができた。
(2) ベビーキッズ用品交換会	2	53	11					71			10	145	ベビーキッズ用品の交換会	まち美化事務所の協力をいただき、実施。プレパパ・ママが児童館を知って、気軽に来ていただける機会となるように、実施。以前より乳幼児親子からの要望も高く、多くの参加があった。助産師にも来ていただき、ほっこり交流できる場にもなった。次年度も引き続き取り組んでいく。

(2024) 年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書 (明 徳) 児 童 館

		④子育てグループ活動 「ベビーヨガで育児座談 会」	6	33					32				65	ベビーヨガを得意とする保護者が主体とな り、参加者がリフレッシュし、前向きに子 育てでできることを目的とする。また、児童 館を知らない子育て家庭が、気軽に児童館 に来館できるきっかけにする。	普段子育てで子どもに向き合う毎日の中、リフレッシュできる時間となった。子 連れで参加でき、保護者同士で見守る関係ができた。今まで来館したことのない 親子の参加、母親だけの参加もあり、気軽に参加できるものになっている。 年度途中で都合により終了された。	
		④子育てグループ活動「骨 盤×〇〇」	9	44					52				96	カイロプラクターの資格を持つ保護者が主 体となり、体を整えることで心も元気に子 育てを楽しめることを目的とする。	普段子育てで子どもに向き合う毎日の中、体を動かしながら、子育ての話題を 共有し、リフレッシュできる時間となった。不定期に内容を工夫して実施されて いる。	
		合 計		1000	1	7	0	0	0	971	0	0	109	2270		
子ども家庭支 援活動	基本活動	(3)子育て家庭相談・援助 活動	子どもの年齢	件数	受 理 及 び 相 談 経 路			件数	相 談 内 容			件数	つないだ機関等			件数
			乳児 幼児 小1～3年（自由来館） 学童クラブ 小4～6年（自由来館） 中学生 高校生		児童館にて直接受理 児童相談所 保健所 子どもはぐくみ室 主任児童委員 その他 { }				健全育成問題 家庭養育問題 成長・発達問題 教育問題 非行・問題行動 その他 { }				児童相談所 保健所 子どもはぐくみ室 幼稚園・保育園 小学校 中学校 総合支援学校 その他 助産師・発達心理士・保育士			
			件 数 計		—				—				—			
			グループ名		構成人数		活 動 内 容			育成・支援内容			成果と課題			
	推進活動	(5)子育てと健全育成に関する 啓発活動	活動名		実施回数		活 動 内 容			成 果 と 課 題			成 果 と 課 題			
			ベビーマッサージ 「和・笑・輪」		30回		助産師を講師に迎え、ベビーマッサージを実施。 ランチタイムも再開。助産師のアドバイスを気軽に聞くことができる。			育児の疑問や悩みを専門家に気軽に相談でき、アドバイスを受ける機会となっ た。 また、和・笑・輪がきっかけになって児童館の利用に繋がり、乳幼児クラブの登 録にもつながった。						
			子育て講座 「発達障がいサポーター 講座」		1回		小児科医 有井悦子先生、発達障がいの当事者である、小川さんご夫妻をゲスト に迎えて実施。 大人になってから発達障がいと診断を受け子育て世代となったときの悩みなど、 当事者と専門医からの視点をまじえて聴き、意見交換をする。			当事者の体験談、専門医の話が聴けたことで、知識が深まり、地域住民や保護者、 当事者、支援者など、幅広い参加層で、啓発と交流ができた。						
			きがるに相談広場特別講座 「子どもの発達と関わり 方」		2回		京都市学童連盟 主任厚生員 岡崎達也氏による子育て講座。子どもとの関わり 方や、発達についてのお話のあと、グループ、個別での相談を行う。			子どもとの関わり方や子育ての知識を、保護者が深める機会となった。また、子育 て相談にも専門的な視点からアドバイスを聴ける機会となった。						

※注 基本活動は、指針に基づき(1)乳幼児とその保護者を対象とする活動[①乳幼児クラブ活動 ②乳幼児の広場活動]（２）家族参加を促す活動に分類して記入すること。

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

<様式10-3>

			活 動 名	実施回数	主 催	参 加 人 数							連携団体	成果と課題	
						乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人			合 計
							自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ					
(1)地域住民との交流を促進する活動			明徳児童館まつり	1	明徳児童館	38	83	16	31	4	14	128	314	児童館運営協力会 立命館大学サークルロビンフット 京都芸術大学子ども芸術学科 ボランティアサークルさくら会 法人高齢者施設	多くの地域の団体や大学に協力をいただくことで、地域交流と次世代育成につながっている。
			であい ふれあい 発表会	1	明徳児童館	6	18	17	14	4	2	39	100	児童館運営協力会	子ども達が日ごろ取り組んでいる和太鼓、民舞、手話、歌を発表する機会となった。保護者や地域住民との交流につながった。
			合 計	2	－	44	101	33	45	8	16	167	414		

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

<様式10-3>

地 域 福 祉 促 進 機 能	基 本 活 動	(2)ボランティア 活動の推進	活 動 内 容		活 動 人 数				成 果 と 課 題	
					中高生	大学生	大 人	合 計		
			高学年手作りクラブ				1	1	学童クラブ保護者に協力していただいて「がまぐちポーチ」の手作りクラブを行った。 少人数でいてねいな指導が受けられ、その後の継続した利用に繋がっており、来年度も継続した取組にしていきたい。	
			お化け屋敷			5		5	高学年（8人）のJrボランティアを組織した。継続した活動への参加が増えることにより、ボランティア同士が経験を活かし、チームワークを発揮している。 大学生のボランティアの協力があり、高学年と協同で進めていくことができた。	
			明徳児童館まつり		0	14	60	74	高学年（4人）のJrボランティアが企画から取組むことで、責任感が生まれ、意欲を持って取り組むことができた。（射的・似顔絵・キーホルダー） 中学校にも広報を行ったが実行委員としての中学生の参加がなく、来年度の広報の仕方を考える必要がある。 大人のボランティアは広く協力があり、地域の大人たちに児童館を、また子どもの姿を知ってもらうことができた。	
			クリスマス会		0	0	2	2	高学年（7人）のJrボランティアが参加。高学年が継続して活動できる環境を整え、自己実現の場となるよう促進していきたい。また、サンタ役として、民生委員にも協力いただき、異世代交流にもつながった。	
			小さい先生の日				0	0	高学年（91人）のJrボランティアが学童クラブの支援を行った。 異年齢の交流を深めると共に、リーダーシップの伝承を促した。	
			切り絵タイム				27	27	学区社協からスタッフ協力いただき、子どもたちにきめ細かな対応ができている。また、地域の方に児童館について知っていただき、子どもとの交流に繋がった。	
			welcome! 中高生			22		22	大学生と中高生の交流の場となった。また、ボランティアに来てくれた大学生が、より中高生に近い目線で企画を提案してくるようになった。 大学生には、今後も引き続きロールモデルとしての活動を期待する。	
			中学生学習支援			15		15	宿題、テスト勉強など気軽に参加していた。 また、学習面のサポートのみならず、児童にとって将来像をイメージできるような関りが生まれた。	
			人形劇サークル「アイアイ」 ブックトーク				7	7	継続した児童館における活動や児童館行事への参加を通じ、地域間の繋がりを深め、交流を進めることができた。 また、サークル活動の場所を児童館が提供することで、人的社会資源の活用につながり、館の取組内容が多彩になった。	
			京都市児童館学童保育所連盟 ボランティアバンク登録団体 ボランティアサークル さくら会 によるあそびの広場				22	22	広報活動を十分に行い、利用者に周知をしていきたい。	
			アンサンブルグループ「アンジェラ」による クリスマスコンサート				5	5	乳幼児親子を対象に、楽器の演奏での楽しい時間を提供して下さる。感染拡大予防のため、申込制にしていたが、今年度は自由参加とした。グループとしても活躍の機会があり、喜ばれている。	
			合 計		0	56	124	180		

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

<様式10-3>

地 域 福 祉 促 進	基 本 活	(3)地域との連携を 促進する活動	連 携 団 体 等	連 携 内 容	成 果 と 課 題
			岩倉少年補導	「児童館まつり」「正月あそび」において伝承あそびを指導していただいた。 岩倉少年補導主催の「明徳ふれあいコンサート」で和太鼓クラブの演奏	伝承あそびに触れて、あそびの技術を習得し、あそびの幅が広がった。 また、地域の方と関わりをもち、地域間・世代間の交流を促進した。 地域の子どものための健全育成に長年取組んでこられた団体と、今後より良い協力関係を築いていきたい。
			明徳小学校と地域の諸団体	明徳小学校体育館で行われた「明徳おーぷんぎゃらりー」に参加し、「切り絵ステンドグラス」、幼児クラブで制作した「ソルトアート」、高学年手作りクラブの「がまぐちポーチ」の作品、「子どもの作品の写真」、地域に住む介助ボランティアの切り絵作品を出品した。	普段の取組の中で制作した作品を地域に向けて発表することで、小学校の児童や地域住民に児童館の活動について知ってもらうきっかけになった。
			洛北中学校	チャレンジ体験の中学生の受け入れ 洛北中学校吹奏楽部による演奏会	児童館の日常業務から取組の準備、様々な年代の子どもの関わりを通じ、職業に対する責任感を学んだ。チャレンジ体験をきっかけにして、児童館を継続的に利用できるよう企画や取組を行い、中高生の利用に繋げたい。 児童館で吹奏楽部による演奏会を開いていただく。地域の方や乳幼児親子など、多くの方に見に来ていただく。
			北稜高校	高校生と赤ちゃんの交流事業	家庭科の授業の中で実施。乳幼児、高校生、保護者の異世代間交流に繋がった。保護者は、高校生が我が子に興味を持って接していたことを喜んでいた。乳幼児が身近にいない高校生も多く、貴重な体験になった。
			岩倉地域助産師・保健師	ベビーマッサージ「和・笑・輪」、「ふたごの広場」の広報をしていただいた。 「ベビーキッズ用品交換会」「プレママパパいっしょにはじめよ♪」ではプレママパパへの支援をしていただいた。「きがるに相談広場」で保護者の育児や家庭の悩みについて、専門的な支援をしていただいた。 また、相談をきっかけに日常の来館へつなげた。	広報により、地域の乳児を抱える保護者に「ベビーマッサージ 和・笑・輪」「ふたごの広場」の周知ができた。「ふたごの広場」は参加が少なく、地域のニーズを調査する必要がある。「ベビーキッズ用品交換会」「プレママパパいっしょにはじめよ♪」では、プレママパパへのアドバイスや相談支援をしていただき、産後の児童館利用へとつながった。 「きがるに相談広場」では相談をきっかけに児童館利用につながり、幅広い支援とつながった。
			民生・主任児童委員	「ようこそお母さん事業」で新生児のいる家庭を対象に、児童館のおたよりを配布	明徳学区、岩倉南学区の民生・主任児童委員が児童館のおたよりを、地域の新生児家庭に配布。児童館について情報を発信してくださる。児童館利用のきっかけに繋がっている。
			左京消防署岩倉出張所	・職員に小児と乳幼児を対象とした救命講習を行っていただいた。 ・避難訓練において、災害発生から利用者の安全確保人数確認までを確認、評価していただいた。 また、職員による消火器訓練をさせていただいた。	・夏のプール・水遊びに備えることが出来た。 ・消防署に指導していただくことで、真に迫った訓練になり、いざ災害になった時に迅速に避難ができるような確認ができた。また、消防署に放課後の児童館の状況を知っていただけた。職員全体がどんな状況でも災害に遭った時のことを想定して行動することを徹底したい。

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

進
機
能

動

(3)地域との連携を
促進する活動

老人会	「将棋教室」に申し込んだ子どもへの将棋指導	将棋に興味を持つ子どもたちが、地域の年配の方々とふれあいながら、将棋に親しむ時間となっている。年配の方々が個々の子どもの性格も理解し、上手く関わってくださる。地域の方々の参加を広げたい。
フリンジシアターアソシエーション・防災アドバイザー	高学年、中高生による防災演劇ワークショップ 防災ドラマ上映会&防災いろいろ体験会の企画と指導	劇団・防災アドバイザーや大学生ボランティアの協力のもと、防災に関するドラマ撮影を行った。災害の備えについて、また、不安を煽る情報に惑わされずに正しい情報を見抜く大切さを伝えるドラマを作成した。 上映後、大人向けの講座と子ども向けのふろしきを使った防災ワークショップを行った。
岩倉地域包括支援センター 岩倉明徳消防分団 含む安心安全ネット協議会	防災演劇ワークショップ 防災演劇ドラマ上映会&体験会 協力	
防災寺子屋・京都		
石座神社の祭への参加	石座神社御旅所で、和太鼓クラブの和太鼓演奏	例大祭の際に御旅所で演奏。地域の方に和太鼓クラブの演奏を聴いていただく。
岩倉自治連合会	「区民運動会」「明徳ふれあいまつい」で和太鼓クラブの演奏	地域の方に和太鼓クラブの演奏を聴いていただく。
左京まち美化事務所	・毎月の衣類・おもちゃ等リユース活動 ・ベビーキッズ交換会でベビー用品の準備と引き取りをしていただく	・毎月定例にすることでスムーズに回収協力できている。 ・普段来館されない方の参加もあり、広く児童館の事を知ってもらう機会となった。利用者がエコについて知り、3R活動を推進する機会となった。
京都SKYセンター生涯現役社会推進プロジェクト 同志社大学 政策学部 小谷ゼミ	「オレンジガーデニングプロジェクト」を企画運営	地球環境問題について子どもたちにわかりやすくお話しいただいた。押し花の葉や植木鉢の作成を指導していただき、地域包括支援センターの高齢者の方に届け、異年齢交流となった。
地域包括支援センター	・認知症ミニ講座+声かけ訓練を実施し、子ども達が認知症について理解し、地域の一員としての支援の意識を高める。地域住民との交流を図る。 ・子どもの意見箱から竹馬の希望があり、地域包括支援センターでの活動で制作して下さる。	・高齢者福祉分野との協働で、子どもと保護者世代に認知症についての理解と啓発をした。当日は、小学校運動場と、小学校前の公園で実施。地域ボランティアの方々に協力いただいた。高学年児童がこれまでの経験によりスタッフとして、家族役を演じて低学年全員に声かけ体験が実施できた。 ・地域の高齢者に児童館を認知していただくことができ、子どもたちが竹馬で遊ぶ様子も見ていただき交流ができた。

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

<様式10-4>

地 域 福 祉 社 会 機 能	基 本 活 動	(4)児童館を支える地域 組織作り	組織名称		構成団体・個人		会議／取組頻度		議題／取組内容		成果と課題	
			明徳児童館運営協力会 および 子育て支援ネットワーク会議		明徳小学校 明徳幼稚園 岩倉図書館 岩倉地域包括支援センター 明徳小学校PTA 明徳小学校放課後まなび教室実行委員会 京都市明徳児童館学童クラブ保護者会 岩倉明徳自治連合会 岩倉明徳学区社会福祉協議会 明徳学区民生児童委員協議会 下鴨少年補導委員会明徳支部 岩倉明徳老人クラブ協議会 岩倉女性会 明徳消防分団		年4回		・児童館の運営について ・地域交流行事の企画・運営 ・子育てについての情報交換		児童館の会議が、相互の発信 の場にもなり、ネットワークが できた。 児童館とその事業内容につい て、理解が深まり、地域団体の 積極的な協力が繋がっている。	
促 進 機 能	推 進 活 動	(5)地域への施設提供	会場提供・備品貸出等		使 用 目 的		提供先（団体・機関等）		成果と課題			
		(6)地域調査活動	調査名	調査目的	調査対象	調査主体		調査方法		成果と課題		
子育て支援サービス			乳幼児クラブ登録家庭			申込時，修了前アンケート		取組みを行う際に、アレルギーについてのアンケート を取っていることで、一定の配慮ができた。 修了前アンケートから、取組内容への子どもの反応や 要望についての意見を聞くことができた。また、子ども 同士・親同士の繋がりが孤立緩和・子育て不安の緩和な ど、保護者が児童館を居場所として利用されていること が分かった。				

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

<様式10-5>

	広報物の種類	発行頻度	広報対象	広報方法	広報内容	成果と課題
広 報	じどうかんだより	毎月700部 地域回覧の際 は+370部	明徳小学校区 児童館利用児童保護者	明徳小学校全校配布 関係機関に配布依頼 岩倉図書館・左京保健福祉セン ター子どもはぐくみ室・明徳幼 稚園・放課後デイサービス「き ぼう」 地域回覧（年間2回）	月の予定、詳細 児童館の様子を描いたマンガ	毎月1回、地域の利用者に児童館の様子や取組の予定な どの情報を提供し、児童館の活動を知ってもらう。 乳幼児向け、小学生向け、中学生向けなど項目毎に整理 し、利用者それぞれがどの紙面を読めば児童館について必 要な情報が得られるのか分かりやすくしている。また漫画 「こどものせかい」で子どもたちの日々の様子を発信し、 子どもの様子や児童館の周知につながっている。
	中学生タイムポスター	毎月30部	洛北中学校各クラス分	洛北中学校へ掲示依頼	イベントの詳細 イベントの申し込み 中学生利用案内	中学生向け取組「Welcome中学生！」を行う際、洛北中学 校に取り組み内容を記載したポスターをを掲示していただ けるよう依頼し、取組参加につながった。高学年から中学 生への継続利用をねらい、年度末から小学6年生にもプレ 参加を呼びかけた。大学生ボランティアにより内容を企画 運営したり、「中学生学習支援」を行った。今後、中高生 と大学生が共同で企画・実施し主体的な取組としていきた い。
	子ども会議ニュース	都度	児童館利用者 ホームページ閲覧者	遊戯室、創作活動室に掲示 ホームページに掲載	子ども会議で決まったことを知 らせる。	月1回開催の子ども会議（5年生以上の子どもたち）で話 し合った結果などをまとめてニュースを作成した。会議に 参加しなかった子どもたちに、どんなことを話し合い決 まったかを伝えることができた。ゆくゆくは、子どもたち 自身で作成できるように繋げていきたい。
	イベントチラシ	イベントごと	地域住民 イベントの対象となる家庭・児童	明徳児童館にて配布 明徳小学校へ配布 地域の施設への掲示依頼 地域回覧	イベントの詳細 イベントの申し込み	イベントがある時に、じどうかんだより等で広報し、詳 細や申込は児童館でイベントチラシを配布した。 利用者が目的をもって児童館を利用するきっかけになっ た。
	プレママ・プレパパ ベビーマッサージ体験会	都度	児童館を利用する乳幼児親子 妊娠を考えている夫婦 妊娠中の夫婦	地域回覧 近隣のコンビニエンスストア 近隣のスーパー 等	取組内容（プレママ・プレパパ と子育て中の親子が交流し、赤 ちゃんとふれあう機会）の案内	産前からの利用につなげ、切れ目のない支援を目指し、広 報先を広げた。産前の児童館認知度、ニーズが低いのか、 利用に繋がったのはわずかだった。内容の工夫と、広報の 方法を模索していく必要がある。 参加者は実際に赤ちゃんに触れ合ったり、先輩ババママか ら具体的な経験談やアドバイスを聞くことができる機会と なった。
	乳幼児親子向けスケジュール （おさんぽ日和）	毎月290部	児童館を利用する乳幼児親子	関係機関に配布依頼 岩倉図書館・左京保健福祉セン ター子どもはぐくみ室・乳幼児 クラブ・岩倉南民生委員・明徳 主任児童委員・セヴァ子ども学 園	月の予定（乳幼児向けの取組） を紹介	乳幼児向けの情報を前月中旬に案内することにより、月 初めの取組の参加につながった。 各所で配布していただくことにより、「ようこそお母さん 事業」などからの利用も見られる。

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明 徳) 児 童 館

<様式10-5>

	広報物の種類	発行頻度	広報対象	広報方法	広報内容	成果と課題
活 動	子育て支援ステーション情報誌	年2回	地域住民	地域回覧	乳幼児向け児童館の取組、募集、申込みについて	児童館をまだ知らない家庭や利用していない家庭の児童館利用へ繋がられた。 地域の子育て家庭へ情報を発信し、支援に繋がたい。
	ホームページ	月1回 イベントごと	不特定	京都市児童館学童連盟のホームページへ掲載	イベント情報、月の予定（乳幼児向け「おさんぽ日和」、小学生・中高生むけ「じどうかんだより」、中高生タイム案内）をホームページに掲載	来館しなくても、インターネット上で日程を確認でき、新規の来館に繋がった。
	乳幼児クラブだより	年4～5回	乳幼児クラブに登録している家庭	登録している親子に配布する。	登録制クラブの取組予定を案内する。	乳幼児クラブの次の取組内容を知らせ、イメージを持ち、目的をもってクラブに参加してもらうことが出来た。
	学童クラブだより	毎月	登録児童家庭 明徳小学校職員	ICTツールによる配信	月の予定・連絡・注意事項を知らせる。	学童クラブの毎月の予定を知らせ、子どもと保護者が行事等を見通し、学童クラブの生活に参加ができるようになる。 行事の担当になった児童が準備や当日に欠席になることがあり、責任を持って取り組めるよう、保護者には取り組みの意図をさらに伝えていく必要がある。 ICTの導入に伴い、保護者が予定を確認しやすくなった。
	たんぽぽ通信	随時	登録児童家庭 明徳小学校職員	ICTツールによる配信	学童クラブの様子などを紹介。	学童で日常の様子を写真を交えて紹介し、学童クラブの取組の目的や子どもたちの課題などを保護者に伝えた。
	民舞クラブ通信 和太鼓クラブだより 手話クラブだより 将棋教室通信	随時	クラブ登録児童	児童が持ち帰る 参加ボランティアに配布 ICTツールにより配信	クラブの予定・連絡事項 クラブの様子を伝える	クラブの活動予定やクラブの様子などを保護者に伝えることができた。
	ボランティア募集チラシ	各イベントごと	小学生高学年・中高生 大学生 地域住民	小学校高学年以上配布 来館時の声かけ	イベントの詳細 ボランティア活動の紹介	子どもたちが目的をもってボランティア活動に参加した。 小学校だけでなく近隣の中学校や高校にチラシを配布し、多彩な交流が生まれる場所にしていきたい。
	インスタグラム	随時	不特定	都度投稿する	児童館の予定、イベント案内、児童館の様子等	児童館を利用したことのない方にも、取組や雰囲気を知って安心して来てもらえるよう工夫する。同時に、気軽に来館できるような投稿を心がける。

(2024) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明德) 児童館・学童保育所

活動の基本目標（指針）		主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活 援 助 機 能	安全・衛生の確保	・避難訓練	・高学年児童が職員のポジションで先頭と最後尾に分かれて、年少の児童を誘導することが定着し、その場の児童を呼び集めたり、列に並べたり、高学年児童が意識をもって行動していた。 また地震の避難訓練では、児童館取組の防災演劇に参加した児童は頭を守る’ダンゴムシのポーズ’を率先して行うなど継続してそういった取組を行っていることの成果も感じられた。
		・帰宅時の安全指導	・安全な通館路で行き帰りするよう指導をした。 終わりの会で帰宅ルートが同じ者同士で整列し、同じルートの者はまとまって歩くことや寄り道をせずに帰ることなど安全指導を行った。 横断歩道の渡り方や路側帯の歩き方など、交通安全指導もあわせて行った。日頃から各自が交通安全を意識できるよう、継続的に指導していく。
		・手洗い、手指消毒の励行	・感染拡大予防のため、手洗いをするよう声かけを徹底した。特に帰館時やおやつの前など要所要所で指導をした。 また、インフルエンザ・コロナの他、胃腸炎等の感染状況によっては、おやつや食事はマスクを外した状態になるため黙食を指導し、感染予防への意識を高めた。
	健康管理・情緒の安定	・健康状態の把握及び保護者への連絡	・体調が悪い時やケガをした時、また子どもから何か訴えがあった時などは、初期対応をした職員が保護者に連絡を入れるようにしている。 子どもの状態の変化など、日々の打ち合わせや、個別ケース記録での共有は毎日欠かさなかった。これからもこまめに職員間での情報共有を意識し、館全体で子どもたちの状態を把握していく。
		・夏休みの昼寝	・人数の増加により、昼寝場所の確保が難しくなり、希望する子どものみ昼寝の場所を設定している。13：00-14：00の暑い間を学習の時間に設定し体調を管理した。今後も適度な休息を取り入れたい。
	基本的生活習慣の確立	・おもちゃの後片付け荷物の整理を徹底	・「“みんなのおもちゃ・みんなの場所”だから、みんなが快適に過ごせるように」ということを子どもたちに伝えている。 共有のおもちゃの使い方や片付け、くつ・かばんの整理について指導した。継続した指導により定着してきているが、上級生が手本となり下級生に教えるようはたらきかけていく。また、今後も子どもたちが自ら考え、行動できるよう話し合いの場を設けていきたい。
	社会生活技術の獲得	・グループ活動	・遠足やキャンプなど、行事の中で縦割りで活動する場面を設定し、3年生がリーダーとしての意識を持ち、子ども同士で助け合い、教え合う力を身に付ける。
子	生活体験の拡大	・レクリエーション地域交流	・3年生は例年、夜まで児童館で過ごす「3年生楽しい学童の日」を実施している。3年生で遊びを企画運営した。コロナ禍では集団で成し遂げる経験が乏しかったが、自分たちで企画し、集団で遊びきる、仲間のために力を発揮する経験となった。
	生活体験の拡大	・自然体験	・例年、学童クラブキャンプを立命館大学サークル「ロビンフッド」の協力を仰ぎ、青少年野外活動総合センター「友愛の丘」で、1泊2日でキャンプを行っている。コロナで中止していたが今年度再開した。野外活動を通して、草木や虫などの自然に触れるなど様々な経験をすることで、情緒を豊かに育んでいる。また、学童クラブキャンプでは、保護者は参加せず、学童のみの参加のため、自分で持ち物管理や入浴・就寝準備する必要がある。そのため、「自分の事は自分でする」という意識を育てられるように声かけをし、自立を促している。 高学年を「小さい先生」として別行動させることで、3年生が各班のリーダーとなり、リーダーとしての自覚が芽生えるようにしている。
		・乳幼児交流親子リズム	・例年、長期休暇期間に、普段はあまり接することのない、乳幼児親子とリズムあそびを行うことで、乳幼児と直接ふれあい、お兄さん・お姉さんとしての意識を持つようにしている。結果として、“小さい子”との関わり方を学び、普段来館される乳幼児親子と上手に遊ぶ子どもが増えた。 児童館という施設特性を活かし、このような取り組みを積極的に行うことで、普段からの乳幼児親子と小学生の交流につなげていきたい。
	社会性の養成	・ブロック行事への参加	・例年、ソフトボール大会、卓球大会、左京・東山児童館学童保育所まつり(2025年度から、京都やんちゃフェスタと隔年開催)に参加している。 大会では試合を通してルールを学ぶことで、遊びの幅が広がっている。また、チーム競技をする中で、協力することや思いやりを持つことを学んでいる。 他館所の子どもたちと交流をすることが、子どもたちにとって刺激のある良い体験になっている。
		・連盟の取組への参加	児童館学童連盟の会議室で、「みんなにとって居場所ってどんな場所」、「もっと居たいと思う時はどんな時」など、中高生世代で集い意見交換をした。ワークショップに参加した子どもたちは、後日開催の京都市長対談にも参加し、自分たちの考えや意見を届けた。

(2024) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明徳) 児童館・学童保育所

活動の基本目標（指針）		主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
子ども 育成 機能		・誕生会 (年4回の実施)	・誕生会を行うことで、仲間とともに1人1人の成長をお祝いすることができている。企画は3年生が担当し、当日までに会議を開き、準備した。担当としての意識を持ち、企画から準備まで自発的に活動する姿に、自主性の高まりを感じさせられた。また、クイズ大会や手作りのパースデーカード・折り紙のプレゼントもあり、お祝いしてもらった子どもたちは喜んでいて。集団の仲間意識を高めるとともに、3年生の自主性・責任感を養うことができた。大人数の為、今年度も引き続き、誕生月の子どもと担当の3年生のみで明徳小学校の一室をお借りし、実施した。対象の子どもたちのみとすることで、特別感が高まり、より意欲的に意識を持って活動が出来ていた。
	自立の促進と 自主性の尊重	・QRコードで出席の打刻 帰り時間・方法の確認	・児童館に来たらすぐに、個人識別のQRコードのカードをタブレットにかざして打刻する。打刻後、自身で先の見通しを持って行動できるよう、帰る時間・コースごとに分けたカゴに、QRコードを貼り付けたカードを自分で入れるよう指導している。打刻時刻は保護者に通知される。
		・修了行事	・修了式 3年生は低学年の部から高学年の部に、6年生は学童クラブを卒業する節目の行事。感染拡大予防を考え密を避けて2部制にした。低学年の部修了式では2年生の修了式担当を中心に司会・企画運営し、3年生を送り出す。高学年の部修了式では4・5年生が司会・企画運営、当日は1年生をサポートしながら1・4・5年生で6年生を送り出す。今年度は3年生・6年生へのメッセージを投書箱へ集め、学年関係なく様々なメッセージを集めることができた。加えて、3年生へ写真のスライドショー、6年生へお祝いのコメント動画を上映した。
		・遠足	年間2度の遠足を計画。秋の遠足では、滋賀県立びわこ子どもの国へ出かけた。デイキャンプの班を引継ぎ、3年生がリーダーとなって点呼を担当した。3年生が班を意識することで、異年齢での遊びにつながった。バス乗車中は高学年が事前に準備していたバスレクを行い、低学年に高学年が小さい先生としての力を発揮する機会となった。 3月の遠足は、子どもたちに先行アンケートをとり、琵琶湖博物館へ出かけた。グループも子どもたち主導で決めた。高学年はバスレクと、時計係を担当し、高学年が3年生へ、3年生から低学年へ声掛けをして集合時間を守ることができた。
		・高学年取組	・小さい先生の日 高学年が生活やあそびにおいて低学年の手本となり、「小さい先生」であることを自覚して過ごすために、長期休みに実施。活動を通して、普段の生活の中でも意識を持ち活躍することをねらっている、しかし、学童クラブの生活において自己欲求を満たすことが最優先になり、集団の中で年下を思いやる行動に繋がっていない。まず、高学年と職員が信頼関係を築き、充実した生活を送る中で、自分たちの居場所だと感じられるよう、はたらきかけていく必要がある。その上で、集団の年長者である自覚を持ち、思いやりある行動に繋がるよう働きかけていきたい。また、職員が高学年の発達段階を学び、理解していく必要がある。
子育て 支援 機能	子育てに必要な 情報の提供と交換	・毎月のおたより発行	・子どもたちの様子を「たんぼぼ通信」で、行事予定を「学童クラブだより」で保護者に伝える。学童クラブがどのような意図を持って日々活動しているかということを保険者に伝えられた。また、それぞれWebさくらにアップロードすることで、保護者がタイムリーに情報を得られるようになった。
		・保護者懇談会	・6月、2月に開催。 ・活動計画や子どもたちの様子を直接伝え、また相談することができた。 ・学年別や地域ごとでの小グループに分かれ話し合う時間を設け、保護者同士の交流を図った。経験ある保護者に話を聞いたり、悩みや困りを共有する機会となった。 保護者アンケートによりニーズを把握し、今後もより参加の増加を図り、学童クラブへの理解と協力を広げたい。
		・学校との通信の 交換・連携	・学校だより、学童だよりを交換することで、お互いの行事を把握することができた。また、気になる子どもの様子を見つけた時や、トラブル発生時は学校とも個別に情報を共有することでより良い支援、トラブル解決につながれた。
	子育ての仲間づくり	・親子交流会	・保護者と子どもとの交流の機会をとれるようにと、子どもたちと保護者でレクリエーションを楽しむ取組。保護者会と職員それぞれにレクリエーションを実施。保護者と子ども、保護者同士を結び付けるきっかけになるので、今後子育ての仲間づくりという視点からも続けていきたい。2024年度は、保護者発案のドッジボールなどのゲームと、児童館で用意した工作を交流しながら楽しんだ。保護者への負担が大きくならないよう工夫していきたい。
		・発達障がい サポーター講座	・保護者と地域の方に、「発達障害」の特性を知ってもらうきっかけとなるよう、「発達障がい」をテーマとした勉強会を定期的開催。2024年度は発達障害当事者の方より出産・子育て経験、夫婦関係での工夫などについてお話しいただき、昨年度に引き続き小児科医有井先生にもお話いただいた。お話の後は、感じた事や疑問、日頃の考えなどを話し合い交流することができた。

(2024) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明德) 児童館・学童保育所

行事名	実施回数	学童クラブ児童						登録外児童		ボランティア			その他	合 計	内 容	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1～3年	4～6年	中高生	大学生	大人				
(1) 生活援助機能																
○学習習慣育成														0	長期休暇中も学習習慣を身につけるために、昼食後学習の時間を設ける。	
○避難訓練	6	173	102	69	36	27	2	1	6					416	高学年児童が職員のポジションで年少の児童を誘導することが定着し、高学年児童が意識を持って行動していた。地震の避難と火災の避難を分けて訓練した。火災については出火場所や時間帯を変えて多様なパターンで訓練した。	
○保護者会大掃除	2												保護者	73	子どもたちの「生活の場」である児童館を学童クラブの保護者が掃除する。保護者同士が協力して行うことで交流につながった。	
(2) 子ども育成機能																
○1年生を迎える会	1	47	43	28	22	14								154	3年生企画。クイズやあそびの紹介、プレゼント渡しなど、1年生が安心して生活できるよう学童クラブみんな歓迎する。その後、高学年企画の遊びコーナーを展開し、3年生が1年生をリードし交流を図った。	
○誕生会	4	32	22	25	13	3	1	2						98	3年生企画。年4回行った。担当の3年生が司会進行。事前にみんなが楽しめるレクリエーションを考える。多人数のため、別室を借りて誕生会担当の3年生と、誕生会の月の子どもだけで行っている。	
○左京・東山児童館学童保育所まつり2024	1	4	11	8	1	3	0	2						29	3年生はステージ発表でまつり太鼓を演奏。各自遊びコーナーを回る。	
○乳幼児交流リズム	1	3	5	5									乳幼児 大人	2	15	乳幼児さんとのふれあい。紙芝居を読んだり、一緒に体を動かす。
○認知症ミニ講座＆地域探検	1	16	17	18	4	5	0	2	1	0	0	13		76	午前中に低学年と高学年に分かれ各々、岩倉地域包括支援センター・岩倉図書館による認知症の学習を行った。午後は、地域の有志ボランティアに認知症役をしていただき4年生以上が孫役を務め、他の子どもたちが声掛け体験をする。	
○立命館大学ボランティアサークル「ロビンフッド」さんとの交流	1	17	24	11	8	3	0	0	0	0	22			85	キャンプに向け、大学生ロビンフッドとの顔合わせ、交流を図る。キャンプ班で名札制作や現地での遊びのデモンストレーションを行った。高学年は、ロビンフッドとともに高学年担当の遊びコーナーを企画・準備し当日に備えた。	
○学童クラブキャンプ	1	45	54	32	16	10	0	0	0	0	48			205	立命館大学ロビンフッドが中心となり「友愛の丘キャンプ場」で実施。縦割りのキャンプ班にロビンフッドがサポートで付く。高学年とロビンフッドによる野外あそびラリー、貸し切りプールでの水遊び、夕食後、キャンプファイヤーで歌やゲームを楽しむ。一泊して帰館。	
○3年生取組	1	0	0	6	0	0	0	19	0					25	思い出づくりと4年生以降を視野に入れた自立の促進のため、自分たちで企画運営する遊びを児童館内で行う。	

(2024) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(明德) 児童館・学童保育所

行事名	実施回数	学童クラブ児童						登録外児童		ボランティア			その他	合 計	内 容	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1～3年	4～6年	中高生	大学生	大人				
○左京東山児童館学童保育所なかよし卓球大会	1	0	1	9	2	1	0	0	4	0	0	0	中学生	3	20	卓球の試合を通じて、左京区・東山区の他館所との親睦を深める。スポーツのルールとマナーを学ぶ。
○ソフトボール交流会	1	5	1	6	2	0	1	0	8	0	0	1			24	村松児童館、修学院児童館、新道児童館と交流ソフトボールを実施。スポーツを通じて他館所との交流ができた。
○学童遠足	1	66	57	40	12	13	1	0	0	0	4	3			196	バスで滋賀県「びわここどもの国」（10月）「琵琶湖博物館」（3月）へ行く。日頃の生活の力を発揮する、また思い出作りの機会とした。3年生が班活動のリーダーとして点呼を担当し、高学年はバスレクを担当した。
○防災演劇ワークショップ	1	0	0	0	3	2	0	0	15	0	3	0	中高生	6	29	劇団・防災アドバイザーや大学生ボランティアの指導のもと、防災に関するドラマ撮影を行った。
○防災ドラマ上映&防災いろいろ体験会	1	4	7	2	1	0	0	7	8	0	2	0	乳幼児 大人	35	66	ワークショップで撮影したドラマの上映と、防災についての体験会を行う。当日は防災演劇を上映し、防災活動サークル防災寺子屋・京都主宰されている太田氏にミニレクチャーをしていただき、被災時の風呂敷の使い方など体験会を実施。
○3年生・6年生記念品制作	1			26											26	修了の記念として、講師を招いて3年生は櫓のペン立て、6年生は櫓の時計を制作。
○修了式	1	27	31	17	6	4	1	0	0						86	登録人数増大のため、低学年の部と高学年の部の2回に時間を分けて行う。低学年の部は2年生が企画し、3年生が修了する。高学年の部は4・5年生が企画し、6年生が修了する。修了証書渡し、送辞、答辞、メッセージカード渡し、3年生へ写真のスライドショー、6年生へお祝いコメント動画の上映、歌を歌う。
(3)子育て支援機能																
○親子交流会	1	4	7	5	2	3	0	19	7				保護者		47	保護者会と共催で、親子同士で交流できるようなレクリエーションを行う。
○保護者懇談会	4												保護者	27	27	普段の子どもたちの様子を伝え、長期休暇の生活・行事についての報告をする。
○新規登録説明会	1												保護者	27	27	学童クラブの事業について概要を説明し、登録に必要な書類の説明をする。
○入会説明会	1												保護者	20	20	児童館・学童クラブでの生活について具体的に説明する。
○子育て講座 「発達障がいサポーター講座」	1												大人 (乳幼児 1)	16	16	小児科医の有井先生のお話と当事者の方がご夫婦で出産・子育てについてお話をくださった。地域住民、保護者、当事者、支援者が集まり、発達障害への理解と共感を深める時間となった。
○お弁当いらんDAY	3	89	83	65	37	10	1								285	学童クラブで昼食を用意することで、長期休暇中に、家庭でお弁当を作る負担を1日でも減らす。また、子どもたちが昼食を楽しみに学童に出席できた。

*注 行事名は、(1)生活援助機能 (2)子ども育成機能 (3)子育て支援機能に分類して記入すること